

令和2年度病害虫発生予察注意報第8号

令和2年9月16日
愛知 県

作物名：キャベツ
病害虫名：シロイチモジヨトウ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 やや多い
- 3 注意報発表の根拠

(1) 9月上旬に県内20ほ場で行った巡回調査の結果、寄生株率は1.0%（平年1.1%、前年0.8%）で過去10年間と比較して3番目に高く、発生ほ場率は27.8%（平年10.6%、前年22.2%）で過去10年間と比較して2番目に高かった。

(2) 名古屋地方気象台9月10日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高い見込みで、本虫の発生に好適な条件である。

4 形態及び発生生態

成虫は暗灰褐色、体長約12mmの蛾で、前翅の中央部に黄褐色の円形斑紋がある（図1）。卵は黄褐色、約0.5mmのまんじゅう型、卵塊で産卵され、表面は灰褐色の毛で覆われる。幼虫の体色は多様で、緑色から黒紺色まで個体差が大きい。老齢幼虫になると、腹部の側面の線が白く明瞭になり、気門線の腹縁部が桃色を呈し、体長約30mmとなる（図2）。

ふ化後しばらくは集団で生息し、齢が進むにつれて次第に分散する。成虫は4月から11月頃に、年4～5回発生する。非常に広食性で、被害はキャベツのほか、ハクサイ、ダイコン、ネギ、ホウレンソウ、ダイズなど、50種以上の野菜類や花き類に及ぶ。



図1 成虫



図2 老齢幼虫

5 防除対策

- (1) 幼虫の寄生を確認したら、表1を参考に若齢期のうちに速やかに防除する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一IRACコードの農薬を連用しない。
- (3) 本虫は広食性で、雑草などにも寄生しているため、ほ場周辺の雑草を除去する。

表1 キャベツのシロイチモジヨトウに対する主な防除薬剤

農薬の名称	使用時期	希釈倍数	使用方法	使用回数	系統	IRACコード
コテツフロアブル	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内	ピロール	13
ヨーバルフロアブル	収穫前日まで	2500～ 5000倍	散布	3回以内	ジアミド	28
ゼンターリ顆粒水和剤	発生初期但し、 収穫前日まで	1000倍	散布	-	BT	11A
デルフィン顆粒水和剤	発生初期但し、 収穫前日まで	1000倍	散布	-	BT	11A

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/chanism_irac02pdfを参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

6 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話 0561-62-0085 内線471